

編集後記

10連休の初日に、縁あって弘前城の桜を観る機会を得た。桜前線も咲き始めてから1カ月かけてゆっくりと北上し、GWに北国でフィナーレを飾る。それにしても弘前城の桜は圧巻な美しさで、さすがに日本3大桜名所の1つである。ソメイヨシノだけではなくシダレザクラやヤエザクラなど約50種、2,600本の桜が咲き乱れていた。昼は弘前城と岩木山を背景に絵画を思わせる絶景であるし、夜はライトアップされた桜が西堀の水面に映り、桜のトンネルが永遠と彼方まで続いているかのように思えた。川沿いの料亭からは津軽三味線の音色がうっすらと聞こえて来て、その雰囲気素晴らしさに参ってしまったのである。嗚呼、死ぬまでもう一度行きたい！

さて、今月の特集は帝京大学の河野博隆先生と東京医療センターの森岡秀夫先生にご企画いただいた「がん口コモの展望」である。現在、2人に1人ががんになり、新規がん罹患患者数は100万人を超えている。一方、がん治療の進歩によって飛躍的に生命予後が改善しており、まさにがんとともに生きる時代になった。運動器を担当する我々整形外科医もがん患者のQOL, ADLに正面から向き合わなくてはいけない時であろう。石橋氏と古矢氏はがん口コモの疾患概念と

がん患者における運動機能について紹介された。酒井氏には予防的・回復的・維持的・緩和的がんリハビリテーションの実際について述べていただいた。大島氏はがん口コモに対する早期の手術的介入がQOLを改善することに加え、その後の原発巣への治療にも有効なことを示された。また高木氏、岩田氏、山本氏、阿部氏は多診療科、多職種による包括的なチーム診療の重要性を、宮田氏は緩和ケアの具体的な方策について語っていただいた。磯貝氏は転移性脊椎腫瘍に対するminimally invasive spine stabilizationが疼痛軽減やQOLの維持に効果が高いことを示していただいた。

ひと昔前、病的骨折や骨転移による脊髄麻痺の患者さんへの手術適応は予後が1~2年以上と教えられた。生命予後を改善できない場合には大きな侵襲を加えてはいけないという考えである。おそらくは読者の多くもそうではないだろうか。しかしながら、現代はがんと共に生き、共に働き、がんがありながら人生をより良くしようとする時代である。がんがすべてを諦める理由ではもはや無い。今後、診断と治療のエビデンスがさらに蓄積され、がん口コモの患者さんの福音につながっていくことを期待する。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第62巻 第7号 (6月号) 2019年6月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 2,500 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。